

青年部教学試験(一級)問題

問一 「観心本尊抄」(背景・大意、第1章～第10章) から問いに答えなさい。

一、本抄はどこで執筆されましたか。地名を答えなさい。また、本抄は誰に宛てて送られたものですか。
二、第1章で、日蓮大聖人は一念三千の典拠として、「摩訶止観第五」の文の一節を掲げられています。

「夫れ一心に [] ① [] を具す一法界に又 [] ① [] を具すれば百法界なり一界に三十種の [] ② [] を具すれば百法界に即三千種の [] ② [] を具す、此の三千・一念の [] ③ [] に在り若し [] ③ [] 無んば而已のみなげに介爾も [] ③ [] 有れば即ち三千を具す乃至所以ゆえに称して不可思議境と為す意こころ此に在り」

イ、「摩訶止観」は () イ () が講述し、弟子の章安が記録した書です。() イ () に入る正しい名前を書きなさい。
ロ、①～③に入る正しい言葉を書きなさい。

三、第4章では、百界千如と一念三千の違いについて、「百界千如は有情界に限り一念三千は [] に亘る」と述べられています。また、天台の難信難解について、「教門の難信難解」と [] の難信難解があることが論じられています。
イ、 [] に入る正しい言葉を書きなさい。

ロ、傍線口「教門の難信難解」の内容として、大聖人は具体的に二つの点を挙げられています。一つは、爾前経では二乗は永遠に成仏できないと説きながら、法華経迹門では「二乗作仏」を説く点です。もう一つの点は何ですか。

四、第5章で大聖人は「我が [] を観じて十法界を見る是を [] と云うなり」と仰せです。 [] に入る正しい言葉を書きなさい。
五、第9章では、私たちの生命に四聖が具足していることについて、具体的な例を挙げて説明しています。このうち、菩薩界が凡夫の生命に具わっていることを示す例として、どのようなことが挙げられていますか。

六、第10章では、人界に仏界が具足していることの現証として、「堯舜等の聖人の如きは万民に於て偏頗へんぱ無し人界の仏界の一分なり、 [] は所見の人に於て仏身を見る [] は人界より仏身を成ず」と仰せです。 [] に入る正しい言葉を書きなさい。

問二 「観心本尊抄」(第11章～第16章) から問いに答えなさい。

一、第13章で「但し諸経と法華との相違は経文より事起つて分明なり [] と已顕と証明と舌相と二乗の成不と始成と [] と等之を顕わす」と、法華経と爾前経との間の根本的な相違を示されています。 [] に入る正しい言葉を書きなさい。

二、次の文章を読み、後ろのイ、ロの問いに答えなさい。
「釈尊のような偉大な仏が凡夫の劣心に具わることが信じられない」との疑問に答えるにあたり、大聖人は第14章で、法華経が難信難解であることを示し、「三國に経歴して但三人のみ有つて始めて此の正法を覚知せり」と仰せです。そして第16章では、経文等を挙げられた後、会通を加えられ、「受持即観心」の法門を明かされます。

イ、傍線イ「但三人」とは誰のことか、名前を書きなさい。
ロ、傍線ロ「受持即観心」の法門を明かした御文を書きなさい。

三、「受持即観心」によって己心に顕れる四聖について、第16章で法華経の経文を引用して示されています。次のイ～ハの御文の [] に入る正しい言葉を書きなさい。

イ、「無上宝聚・不求自得」云云、我等が己心の [] なり
ロ、「我等が己心の [] は五百塵点乃至所顕の三身にして無始の古仏なり」
ハ、「上行・無逆行・淨行・安立行等は我等が己心の [] なり」

四、次の御文の [] に入る正しい言葉を書きなさい。
「詮ずる所は [] に非ずんば有情の成仏・木画二像の本尊は有名無実なり」(第15章)

「妙楽大師云く『当に知るべし身土一念の三千なり故に成道の時此の本理に称なづうて [] 法界に遍あまねし』等云云」(第16章)

(問三以降は裏へ続く)

問三 「観心本尊抄」(第17章〜第31章) から問いに答えなさい。

一、第20章から第25章では、釈尊をはじめ三世十方の仏が説こうとした最も大切な教えがどこに説かれているかを「五重三段」を通して明かされています。

イ、「五重三段」のうち、「本門脱益三段」「文底下種三段」それぞれの序分、正宗分、流通分を述べなさい。

ロ、第25章では、「在世の本門」と「末法の始」を対比して、種脱相対を明かされています。このうち、教法の違いについて述べた御文を書きなさい。

二、第29章では、四菩薩が末法に出現するありさまについて論じられています。「折伏を實踐する時」「摂受を行ずる時」の具体的なありさまについて書きなさい。

三、次の御文の□に入る正しい言葉を書きなさい。

「此の本門の肝心南無妙法蓮華經の五字に於ては仏猶なほ文殊薬王等にも之を付属し給わず何に況や其の已外をや但□を召して八品を説いて之を付属し給う」(第19章)

「今の遣使還告は地涌なり是好良薬とは□の肝要たる名体宗用教の□是なり」(第27章)

「□を識らざる者には仏・大慈悲を起し五字の内に此の珠を裹つつみ□幼稚の頸くびに懸つけさしめ給う」(第31章)

問四 「兄弟抄」から問いに答えなさい。(①〜⑦の数字は、「大白蓮華」6月号の教材に基づいています)

一、(兄弟抄①) 本抄は、信心の正念場に立たされた池上兄弟に対し、法華經を信じる本質的な意義から書き起こされています。その冒頭の一節を書きなさい。

二、(兄弟抄③) 本抄では、「法華經を信ずる人の・をそるべきものは賊人・強盜・夜打ち・虎狼・師子等よりも当時の蒙古のせめよりも法華經の行者を(イ) 人人なり」と仰せです。そして、この「をそるべきもの」を支配している根源について「此の世界は

(ロ) □ () の所領なり」と仰せであり、妻や子、父母や国王の身に入ることがあると言及されています。イ、ロに入る言葉を書きなさい。(趣旨でよい)。

三、(兄弟抄④) 本抄では、「各各・随分に(イ) ・ゆへに過去の重罪をせめいだし給いて候」と述べられ、兄弟が受けている難の意味について、諸天善神が兄弟の信心が本物かどうかを試しているのであり、生命の鍛錬であることを教えられています。そして、平左衛門尉の前での大聖人の御振る舞いを通して、難に当たつての信心の姿勢を強調されています。

イ、イに入る言葉を書きなさい。(趣旨でよい)。

ロ、傍線ロについて、本抄では、どのように述べられていますか。

四、(兄弟抄⑤) 本抄では、釈尊と父・浄飯王のエピソードに触れ、真実の孝養について示されています。その御文を書きなさい。

五、(兄弟抄⑥) 本抄後半で、三障四魔出来の原理が記された「摩訶止観」の第5巻の一節を踏まえて、大聖人はどのように仰せですか。

六、(兄弟抄⑦) 池上兄弟とその夫人たちが悪縁に紛動されず、苦難を乗り越えるために、大聖人は「心の師とは・なるとも心を師とせざれ」との六波羅蜜經の文を引いて、どのように示されていますか。その御文を書きなさい。

問五 「日顕宗を破す」から問いに答えなさい。

一、「日蓮と(イ) () ならば地涌の菩薩たらんか」との仰せ通りに広宣流布を推進してきた創価学会を破門した日顕宗は、五逆罪で言えば、(ロ) □ () にあたります。私たちは「如かず彼の万祈を修せんよりは此の(ハ) () を禁ぜんには」との精神で、日顕宗を破折するのです。イ〜ハに当てはまる正しい言葉を書きなさい。

二、日顕宗の法主信仰の誤りを、御書の御文を用いて破折しなさい。

三、僧侶を呼ばない葬儀では故人が成仏しない、などと言っている日顕宗の邪義を、大聖人の仏法の法理に基づいて破折しなさい。